



# Sailing Ahead

## 2026 年 7 月

ニュースレター7月号へようこそ！

今年も下半期に入りましたが、PIANC コミュニティ全体で多くの活動が予定されています。最も注目すべきイベントとして、8 月 25 日～27 日にブリスベンにて開催の「PIANC APAC 2026」の準備が本格化しています。

本イベントでは、APAC 地域内外からの専門家が終結します。また、この会合に、PIANC プラチナパートナーである ShibataFenderTeam (SFT)社と、Trelleborg 社も参加されることを大変喜ばしく思います。

その他の本号で紹介している今後のイベント等についても、ぜひご確認いただき、カレンダーにマーキングをお願いいたします。

また、ご期待いただきたいお知らせとしては、8 月又は 9 月に、以下の 2 冊の重要な PIANC 報告書のリリースが予定されています：

- ・海港委員会(MarCom)報告書 WG 171: 水路・港湾設計のための船舶航行シミュレーション(Ship Handling Simulation Dedicated to Channel and Harbour Design)
- ・海港委員会(MarCom)報告書 WG 243: コンテナターミナル舗装の持続可能性 -設計から供用終了まで(Sustainability of Container Terminal Pavements – From Design to End-of-Life)

これらの報告書は、海上インフラ分野の実務者にとって価値ある指針と知見を提供するものです。

今月号では、海港委(MarCom)WG 248 からののお知らせも掲載されています。本 WG では、関連する「船舶への陸上給電(Onshore Power Supply)」プロジェクトやケーススタディの実績や情報を有する PIANC 会員や港湾からの投稿・情報提供を募っています。皆さまの実績や知見を共有いただける場合は、[WG 248 議長\(Chair\)](#)にご一報の上、ご協力いただけると幸いです。

今月のニュースレターを是非ご一読ください！

今後の PIANC イベントにご参加ください！

PIANC APAC\* 2026

豪・ブリスベン

2026 年 8 月 25 日 - 27 日

\*PIANC APAC: PIANC Asia Pacific Conference

PIANC  
APAC  
2026

4TH PIANC AU-NZ BIENNIAL CONFERENCE  
FOCUSING ON OCEANIA AND OUR  
ASIA-PACIFIC NEIGHBOURS  
25 - 27 AUGUST 2026, BRISBANE, AUSTRALIA  
[www.piancapac.com](http://www.piancapac.com)

[登録はこちら！](#)

[会議ウェブサイトはこちら！](#)

NordPIANC 2026

エストニア・タリン

2026 年 9 月 9 日 - 11 日



[登録はこちら！](#)

[会議ウェブサイトはこちら！](#)

PIANC COPEDEC\*\* XI

インド・チェンナイ

2027 年 2 月 21 日 - 26 日

\*\* COPEDEC: Conference on Coastal and Port Engineering in Developing Countries(開発途上国における海岸・港湾工学国際会議)



PIANC-Japan 事務局(注)  
↑上の画像のクリックで COPEDEC XI のプロモーションビデオを視聴できます

[会議ウェブサイトはこちら！](#)

PIANC YP-COM BIENNIAL TECHNICAL VISIT(BTV)\*\*

スペイン・バルセロナ

2027 年 6 月 30 日 - 7 月 2 日

\*\* PIANC 若手技術者委員会(YP-Com)が概ね隔年で世界各地にて開催

SAVE THE DATE

PIANC  
The World Association for Waterborne  
Transport Infrastructure

PIANC YP-COM  
Biennial Technical Visit 2027  
Barcelona, Spain

30 JUNE - 2 JULY 2027  
Portal de la Pau  
Port de Barcelona  
3-day event

Ports & Coasts of the Future:  
Innovation, Resilience, and  
Sustainable Development

Join Young Professionals and maritime experts from around the world for three days of technical sessions, port visits, workshops and networking in one of Europe's leading port cities.

1. Technical sessions  
Ports, coasts, climate adaptation and innovation
2. Port technical visits  
Technical operations, energy transition and connectivity
3. YP workshops  
Collaborative sessions with the PIANC Young Professionals community
4. Networking  
Opening cocktail hosted at Portal de la Pau

Venue confirmed: Portal de la Pau

Port de Barcelona

Hosted by Port de Barcelona  
Organized by PIANC YP Special Section in collaboration with PIANC YP-Com  
More details and registration information coming soon.

Barcelona  
30 Jun - 2 Jul 2027

[日程確保を\(上記のフライヤーにリンク\)！](#)

## PIANC 各賞への応募はこちら

### PIANC デ・パエペ-ウィレムス賞 2027 (DE PAEPE-WILLEMS AWARD(DPWA) 2027)

**アブストラクト(3頁)提出メ切は8月末!**



**PIANC De Paepe-Willems Award**

The PIANC De Paepe-Willems Award (DPWA) is a prestigious international prize encouraging **Young Professionals** to submit original technical papers in the field of waterborne transport infrastructure.

**Why Apply?**

- Gain international recognition for your technical paper
- Introduce yourself to an international network of experts in your industry
- Win a great cash prize and free PIANC membership

➤ 1<sup>st</sup> Prize: € 4,000 + 3-year free PIANC membership + travel & 3-night hotel stay to present at the PIANC Annual General Assembly (AGA)

➤ 2<sup>nd</sup> Prize: € 2,000 + 1-year free PIANC membership

➤ 3<sup>rd</sup> Prize: € 1,000 + 1-year free PIANC membership

**Who?** All Young Professionals who have not reached the age of 40 before 31 December of the year in which the abstract has been submitted.

**How?** Visit the PIANC website to learn more and submit your project for review: <https://bit.ly/4IFHxGF>

### PIANC 自然との協働・共生賞 2028 (PIANC WORKING WITH NATURE AWARD 2028)



**Working with Nature Award 2028**

This international award celebrates outstanding waterborne transport infrastructure projects that demonstrate a proactive, integrated approach to working with natural processes — delivering benefits for both navigation infrastructure and the environment.

**Why Apply?**

- Gain international recognition for your innovative, eco-friendly approach to waterborne transport infrastructure
- Showcase your commitment to sustainability
- Inspire others through your example

In case your project receives a Certificate of Recognition, it will be in the running for the PIANC Working with Nature Award during the PIANC World Congress in 2028.

Any completed or ongoing navigation infrastructure project that embodies the Working with Nature philosophy is eligible for consideration.

**Who?** Any completed or ongoing navigation infrastructure project that embodies the Working with Nature philosophy is eligible for consideration.

**How?** Visit the PIANC website to learn more and submit your project for review: [bit.ly/41DLVU](https://bit.ly/41DLVU)

#### 🤖 応募のメリット

- ✔ 技術論文の国際的な評価の獲得
- ✔ 当該分野の専門家の国際的ネットワークへの参画・自己アピール
- ✔ 多額の賞金と PIANC 無料会員権の獲得

過去の受賞者の声をお読み下さい!

[these testimonials](#)

※PIANC-Japan 事務局(注)参考資料以下のとおり

👉 [DPWA 賞 2027 応募要領&審査基準 仮訳&英文版](#)

👉 [DPWA 受賞論文一覧 2014 年-2026 年](#)

#### 👤👤 応募資格

アブストラクト提出(応募)の年の12月31日時点で40歳未満の全ての若手技術者(YP)

#### 🔗 応募方法

過去の受賞者(論文)に関する情報の確認、及び論文の応募申請(提出)については、[PIANC Web サイト](#)をご参照ください。

#### 🤖 応募のメリット

- ✔ 水上交通インフラにおける革新的かつエコフレンドリーなアプローチへの国際的な評価の獲得
- ✔ 持続可能な取組みのアピールにつながる
- ✔ 応募プロジェクトを先例とする他プロジェクトの範となる

応募プロジェクトが認定証(Certificate of Recognition)を獲得している場合は、2028 年 PIANC 世界航路会議(PIANC World Congress)において、本賞の候補となります。

※PIANC-Japan 事務局(注) 参考資料以下のとおり  
応募等に関連する本部ウェブサイト(一部)の「仮訳」[9 頁参照](#)

#### 👤👤 応募資格

自然との共生・協働(WwN: Working with Nature)の理念を具現化する水上交通インフラ・プロジェクトであれば、完了/継続案件にかかわらず応募の資格があります

#### 🔗 応募方法

過去の受賞プロジェクトに関する情報の確認、及びプロジェクトの応募申請(提出)については、[PIANC Web サイト](#)をご参照ください。

## PIANC コミュニティからのニュース

各国部会, 各国支部からの実施済または今後予定される活動を共有するニュース

PIANC AU-NZ(オーストラリア・  
ニュージーランド)部会からの  
ニュース



- [太平洋地域における PIANC ネットワークの構築](#)

\*上記の捕捉記事の仮訳  
[10 頁～11 頁参照](#)

- [PIANC AU-NZ 部会の理事会  
新メンバーを歓迎](#)

\*上記の捕捉記事の仮訳  
[12 頁参照](#)

PIANC ドイツ部会  
からのニュース



- [PIANC ドイツ オンライン  
会議を 6 月 30 日に開催](#)

\*上記の捕捉記事の仮訳  
[13 頁参照](#)

PIANC スペイン部会  
からのニュース



- [PIANC スペイン 第 21 回若  
手技術者委員会 技術会合](#)

\*上記の捕捉記事の仮訳  
[14 頁参照](#)

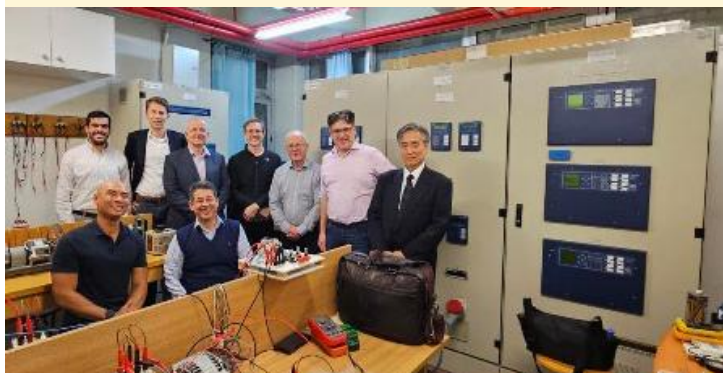
- [スペイン部会 年次総会を  
開催 2026 年 6 月 18 日](#)

\*上記の捕捉記事の仮訳  
[15 頁参照](#)

- [PIANC 海港委委員会\(MarCom\)  
ワークショップ開催 2026  
年 6 月 18 日](#)

\*上記の捕捉記事の仮訳  
[16 頁参照](#)

## PIANC WG からのニュース



上の写真の右端, 白石 WG 248 日本委員

[PIANC MarCom WG 248 -船舶への陸上  
給電ガイドライン\(Guidelines for  
Onshore Power Supply \(OPS\) for  
Ships\)](#)

\*上記の補足記事の「仮訳」[17 頁参照](#)

※本記事は先月号の記事にほぼ同じ。WG からの  
情報提供・寄稿の依頼あるため再掲

## 出版物

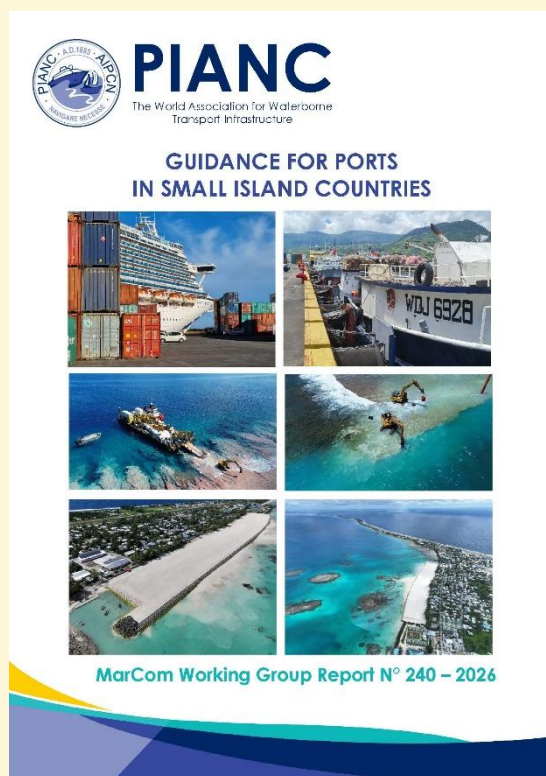
### 発刊中

以下の報告書は 2026 年 6 月に発刊されています

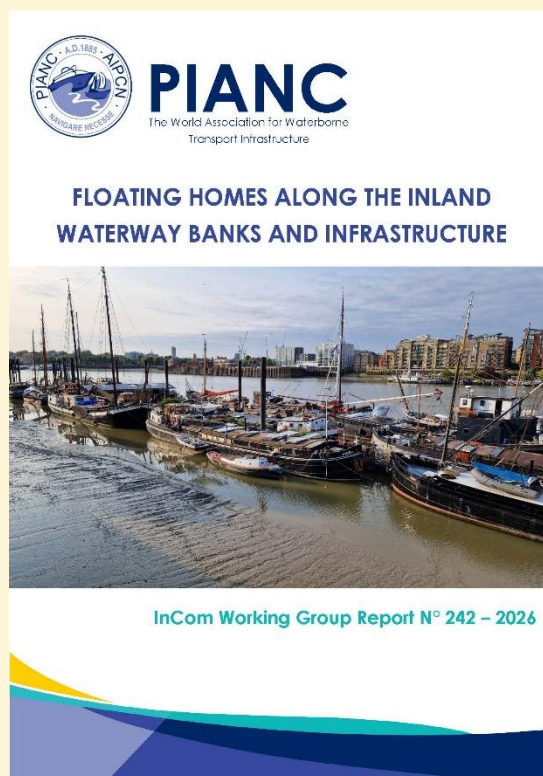
※PIANC-Japan 事務局(注), 先月号の記事の再掲となっています。

※本部プレスリリースのダウンロードは, 下記の報告書の表紙をクリックしてください。

- PIANC WG 240(海港委): 小規模島嶼国の港湾のガイダンス(Guidance for ports in small island Countries)
- PIANC WG 242(内陸水路委): 内陸水路護岸・インフラ沿いの浮体式住居(Floating Homes along the Inland Waterway Banks and Infrastructure)



WG 240 報告書の刊行時の本部プレス  
リリースの仮訳は [18 頁参照](#)



WG 242 報告書の刊行時の本部プレス  
リリースの仮訳は [19 頁参照](#)

### 発刊予定

以下の報告書は, 2026 年 8 月又は 9 月の発刊を準備中です。

- PIANC WG 171(海港委): 水路・港湾設計のための船舶航行シミュレーション  
(Ship Handling Simulation Dedicated to Channel and Harbour Design)
- PIANC WG 243(海港委): コンテナターミナル舗装の持続可能性 -設計から供用終了まで  
(Sustainability of Container Terminal Pavements - From Design to End-of-Life)

## 新設の PIANC WG への応募

環境委(EnviCom)の WG が設置されます。ご希望の方は、2026 年 8 月 31 日までに各国部会、または自国に部会がない場合は [info@pianc.org](mailto:info@pianc.org) にご連絡ください。



WG 274 持続可能な水上交通インフラにおける(浚渫土の)薄層覆土(敷設)の実践ガイド

## 開催予定のウェビナー

### PIANC 米国 第 3 回ウェビナー - 適応型マリーナのインフラ：成長、規制、及びレジリエンス(強靱性, 変化への対応力)のための計画

表題の PIANC 米国の第 3 回ウェビナーの参加登録の受付を開始いたしました。

📅 日 時：2026 年 10 月 28 日(水)午後 2:00~3:00(米国東部夏時間/EDT)

💰 参加費：無料

🎓 CPD：1 PDH 単位

PIANC 米国は、PIANC レクリエーション港湾・水路委員会(Recreation Commission: RecCom)の協力のもとで、2026 年シリーズの 3 回目となるウェビナー開催をご案内します。

本ウェビナーでは、PIANC WG 149「マリーナ設計ガイドライン(Guidelines for Marina Design)」の最新状況や、以下の視点からマリーナの計画・設計における「適応型マリーナのインフラ」及び「実践的なアプローチ」に焦点を当てるものです。

- ・柔軟性(Flexible)
- ・未来志向(Future-oriented)
- ・運用、環境、社会、技術上のニーズ変化に対する対応力(レジリエンス)

講師は、近く発行予定の国際的なガイドラインに関する主要な最新情報、マリーナ計画や管理面における新たなトレンド、今日の設計者・技術者・プランナー・運営者・ウォーターフロント専門家に関係する専門的な幾つかの話題を提供します。

マリーナ計画、海岸工学、水路インフラ、ウォーターフロント開発のいずれかの分野に携わる方々にとり、本ウェビナーは、マリーナ設計の未来に係る有意義な知見を得る機会です。

[参加登録はこちら！](#)

## PIANC プラチナパートナーからのニュース

### SFT 社(ShibataFenderTeam), 第 4 回 APAC 会合 2026 に参加

隔年開催の第 4 回 [PIANC APAC 会合](#)(PIANC Asia Pacific Conference)会合が、8 月 25 日から 27 日に豪・ブリスベンで開催されます。本会合には、アジア太平洋地域をはじめ世界中から PIANC 会員及び関連業界の専門家が集結します。

SFT 社(ShibataFenderTeam)を代表して、弊社マレーシア・オフィスの [Thore Kollmorgen](#) 氏(Managing Director)が、「脱炭素化と気候変動への適応」に関する技術セッションの一環として、「効率的かつ持続可能な港湾運用のための移動式陸電供給システム(Mobile Shore Power Systems)」の発表を行います。また、本イベント期間中、同氏は弊社の代理店である SPEQ(Specialist Port Equipment)社の展示ブースに常駐、参加者の皆さまと SFT 社の港湾インフラ・ソリューションについて意見交換を行う予定です。

本会合は、エンジニア・プランナー・科学者・研究者を含む、港湾・漁港・レクリエーション用船舶の専門家も一堂に会し、業界が直面する最新の動向や課題について議論することを目的としています。

長年にわたる PIANC 会員である SFT 社は、本会合の「シルバー・スポンサー」として、会合のロゴ入りエコバッグのスポンサーを含めて、本会合を支援できることを誇りと考えています。弊社は、スポンサー活動と技術的な貢献を通じて、港湾インフラの未来に向けた持続可能なソリューションに関する知識共有を支援できることを嬉しく思っております。

[Angels Blasco](#)

Junior Marketing Manager, SFT

### Trelleborg Marine & Infrastructure 社, 第 4 回 APAC 会合 2026 に参加

Trelleborg Marine & Infrastructure 社は、2026 年 8 月 25 日から 27 日に豪・ブリスベンにて開催の [PIANC APAC](#) 会合にプラチナ・スポンサーとして参加します。本会合には、アジア太平洋地域全域から港湾オペレーター、コンサルタント、インフラ専門家が集結し、海上インフラ、港湾運営、及びウォーターフロント開発の未来について議論します。

会合期間中、弊社チームは「スタンド 7 (ブース 7)」にて、海上防舷材システム、並びに接岸・係留ソリューションを展示します。ブースには担当者が常駐、弊社の幅広いソリューションが、過酷な条件下においてオペレーターの安全性、効率性、及び資産(運営)パフォーマンスの向上にどのように貢献するかを詳しくご説明します。

8 月 26 日には、弊社プログラムを締めくくる 2 つの技術プレゼンを予定しています。最初は午前 11 時より、シドニー・オフィスの [Adam Sellers](#) 氏が「最新の防舷材の設計ガイドラインの比較: BS 6349-4:2026 対 PIANC WG 211」と題して登壇します。本セッションでは、これら 2 つのガイドラインを綿密に比較、その違いが防舷材システムの設計や仕様選定にど

のような意味を持つのかを解説するものです。続いて、午前11時40分から Charles Bryant 氏(Application Engineering Manager)が「海上ターミナルにおける荷重モニタリングシステムの維持管理及び点検・検証の戦略」について講演する予定です。同氏のセッションでは実務的な内容に焦点を当て、ターミナルオペレーターが荷重モニタリングシステムの正確性と信頼性をどのように維持すべきか、なぜその信頼性が安全な接岸や長期的な資産パフォーマンスを支える基盤となるのかを紐解きます。

出展社かつ講演者の双方の立場で、弊社は、PIANC APAC 2026 が提供する対話の機会を楽しみに臨みます。そして、強靱で効率的、かつ持続可能な港湾インフラに向けた同地域の取り組みに貢献できることを期待しています。

[Alexandra Yang](#)

Trelleborg Marine and Infrastructure

以下は PIANC のプラチナパートナーです：



ソーシャルメディアでPIANCをフォローしてください：



ニュースレターのご購読をご希望ですか？ メール設定は [こちらから](#)

PIANC 公式サイト：<https://www.pianc.org/>

PIANC 会員になるには（右記, 日本部会へご連絡を） [info@pianc-jp.org](mailto:info@pianc-jp.org)

<https://www.pianc.org/join-pianc/>

## PIANC 自然との協働・共生賞 (Working with Nature (WnN) Award)

「自然との協働・共生」は、持続可能な港湾・水路インフラプロジェクトにおける積極的かつ統合的アプローチを推進するPIANCの国際的イニシアティブです。2008年以降、世界中で「自然との協働・共生」の理念を採り入れた数多くの港湾・水路インフラプロジェクトの開発がされてきました。PIANCはこうしたプロジェクトを表彰、認定証を授与することでその取組みを称えたいと考えています。



WwNのフレームワーク(PIANC WG176 報告書第4章(無償・公開部分)より抜粋)

WwNでは、港湾・水路の開発、拡張、成長に係るプロジェクト目標の達成のため、設計段階にてサイト固有の生態系特性の考慮を推奨しています。理想的には、WwNでは設計着手前からのプロジェクト目標の策定への組込みを含んだ完全統合されたアプローチを必要とします。WwNはプロジェクトのほぼ全段階において実施可能ですが、構想・設計・実施の初期段階にて導入することが環境に好影響をもたらす機会として有望です。設計プロセスの後期段階でのWwNの概念の導入はより大きな労力を必要とし、プロジェクト着手時ほどの効果は期待できない場合があります。

2011年のPIANCポジションペーパーで確立したアプローチと、WG報告書によりプロジェクトのライフサイクルは、下図のステップで構成されます。

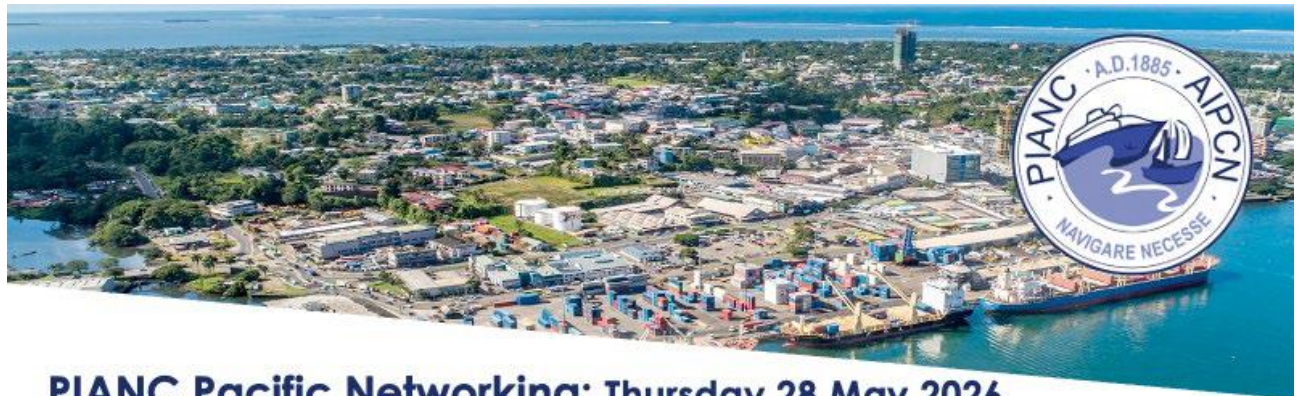


自然との協働・共生賞(2019-2024 期間)受賞者(PIANC 本部ウェブサイト発表資料より抜粋)

- 1 位: 浚渫土の有効活用と生態系ツールによる生息地の回復(Recovery of Habitats Beneficial Use of Dredged Materials and Bio-tools), Huelva 港湾管理者, スペイン
- 2 位: ハンコック郡・干潟生息域海岸とパール川維持浚渫(Hancock County Marsh Living Shoreline and Pearl River Maintenance Dredging), Anchor QEA Inc. 社, 米国
- 3 位: マデイラ川航行改善計画調査(Madeira River Navigation Improvement Planning Study), 米国陸軍工兵隊・ブラジル

## 太平洋地域における PIANC ネットワークの構築

5 月 28 日にフィジー・スヴァ(Suba)にて開催の PIANC 初の「太平洋地域ネットワーク構築イベント(PIANC Pacific Networking)」に関わった全ての皆さまに、心からお祝い申し上げます。



### PIANC Pacific Networking: Thursday 28 May 2026

Time: 4 - 6pm FJT Cost: Free but registrations are essential.

Venue: ADB Suva – Level 12, FHL Tower, along Gordon St - and online

Please note that in-person numbers are limited.

Event proudly supported  
by Fiji Ports and PRIF



Register  
here



#### Speakers:

- Robert Guild (PRIF Team leader) – Welcome
- Akeneta Vatanitawake (Fiji Ports) – Fiji Ports project pipeline
- Lute Mundia (Samoa Ports Authority) - Apia breakwater construction update
- Tomasi Sauqaqa (Fiji Ports Chief Infrastructure Officer) and Justin Cross (PIANC WG 240 Chairman) – Update on PIANC Working Group 240 Guidance for Ports in Small Island Countries.
- Tom Shand (PIANC AU-NZ Board) – Wrap up

本イベントは、PIANC オーストラリア・ニュージーランド(AU-NZ)部会の 2025~2026 年優先目標#3:2「小規模な太平洋諸国への支援の提供」の下、2025 年初頭に本目標の推進のため、理事会に新たな分科会([Tom Shand](#) 氏(委員長), [Marty Bayley](#) 氏, [Andrew Brown](#) 氏, [Ron Cox](#) 氏, [Scott Keane](#) 氏)が発足し、課題やニーズの特定、ビジョンや目標のブラッシュアップ、考え得る行動案についての議論を行いました。

その後、目標、主な成果、具体的な施策、必要となるリソースを含む「戦略計画」を策定しました。本計画には以下の内容を含みます。

- 技術的な専門知識へのアクセス及び地域協力を促進する「小規模な太平洋諸国への支援」のための特別なイニシアティブ
- 小規模島嶼国の個別ニーズに対応できるように個別調整された情報発信・支援活動や連携
- 小規模島嶼国の専門家が我々の会合に参加するための支援(COPEDEC フェローシップや、PIANC APAC 会合の利益の一定割合を原資とする類似の取り組みを含む)。

上記の分科会の最初の成果の一つが、5 月のフィジー・スヴァ開催の今回の対面・オンラインのハイブリッド形式による技術・ネットワーキングイベントです。このイベントには 90 名(対面 30 名, オンライン 60 名)の登録がありました。



太平洋戦略をリードする [Tom Shand](#) 氏から「スヴァにて初となる PIANC AU-NZ 部会の太平洋ネットワーク構築イベントを開催でき、この上ない喜びであったこと。イベント会場のアジア開発銀行(ADB)オフィスからスヴァの素晴らしい景色を一望でき、対面及びオンラインでの多くの参加者による太平洋地域におけるプロジェクトに係る時機を得た話題や、それらが持つ特有の課題についての議論の良い機会となったこと、また、これらの議論を促進するため「PIANC WG 240 報告書 小規模島嶼国における港湾ガイドライン(仮題)」の最新の進捗状況についての話題提供があったこと」などのスピーチがありました。

Tom 氏をはじめとし、以下の登壇者の皆さまに感謝します。

- [Jane Romero](#) 氏(太平洋地域インフラ機関(Pacific Region Infrastructure Facility)技術オフィサー) – 歓迎挨拶
- [Akeneta Vatanitawake](#) 氏(フィジー港湾公社) – フィジー港湾 今後のプロジェクト計画
- [Lute Mundia](#) 氏(サモア港湾局) – Apia(アピア)防波堤建設事業の最新状況
- [Tomasí Sauqaga](#) 氏(フィジー港湾公社, インフラ・チーフ)及び [Justin Cross](#) 氏(PIANC WG 240 議長) – PIANC WG 240 「小規模島嶼国における港湾ガイドライン」の最新状況

講演資料は、現在こちらから閲覧可能 <https://pianc.org.au/resources/presentations/>

ご支援ご協力いただいたフィジー港湾公社(Fiji Ports Corporation Limited)及び太平洋地域インフラ機関(Pacific Region Infrastructure Facility)の皆さま、並びに会場をご提供いただいたアジア開発銀行(ADB)スヴァ・オフィスの皆さまに、心より感謝申し上げます。

共により強く！



[Mary O'Connell](#)

PIANC オーストラリア・ニュージーランド部会

**PIANC オーストラリア・ニュージーランド(AU-NZ)部会の理事会新メンバーを歓迎**

PIANC オーストラリア・ニュージーランド部会の新理事として [Davena Bond](#) 氏, [Dr. Sam Mazaheri](#) 博士及び [Paul Prenzler](#) 氏を心から歓迎いたします。お三方とも、当理事会に豊富な経験と専門知識をもたらしてくれるものです。

Davena 氏と Paul 氏は、オーストラリア技術者協会([Engineers Australia](#))の海岸・海洋工学国家委員会(National Committee on Coastal and Ocean Engineering: NCCOE)の代表として当部会の新理事として就任しました。

Davena 氏は現在、Northern Beaches Council(地方自治組織)の首席技術者を務めており、国内および海外にまたがり海岸・港湾・水路工学における 25 年の経験を有しています。Paul 氏は、[Moffatt & Nichol](#) 社の首席海岸技術者であり、豪州及び南太平洋における海岸管理と保全に係る 30 年以上の経験を持っています。

皆さまよくご存じの Sam 氏は、(本部会内で)活発に活動するクイーンズランド(QLD)地域支部を率いる熱意あふれる支部長であり、港湾や洋上ターミナル、鉄道・運輸、水管理などの分野における幅広い経験を有しています。

今回退任される [Rhys Jones](#) 氏, [Claire Treeby](#) 氏及び [Lisa Wynne](#) 氏に、多大なる感謝の気持ちと送別の意を表します。お三方とも、新たな道で多忙な日々を送られています。

[Mary O'Connell](#)

PIANC オーストラリア・ニュージーランド部会

## PIANC ドイツオンライン会議を 6 月 30 日に開催

2026 年 6 月 30 日に開催された PIANC ドイツ部会の会議において、参加者は英国・ハルで開催された「PIANC ネット・ゼロ会議」に関して、貴重な知見を得ることができました。

連邦水路工学・研究所(BAW, Federal Waterways Engineering and Research Institute)の [Jessica Kelln](#) 博士と、連邦水文学研究所(BfG, Federal Institute of Hydrology)の Mailin Eberle 氏は、ドイツ湾(the German Bight)における堆積土の管理に対するドイツの取り組みについて講演し、お二人とも、科学的な専門知識と実践的なアプローチをどのように連携させながら、沿岸域および水路インフラ開発に向けた持続可能な解決策を進めているかについて、説得力

をもって示してくれました。

非常に刺激的な意見交換の場となりました！



## 次回の会合

2026 年 9 月 17 日開催：第 4 回 PIANC-HTG(独港湾工学協会(Hafentechnische Gesellschaft e.V.))の共催フォーラムとして、テーマ「現代の貨物取扱ターミナル-未来への挑戦」にて開催予定です。本イベントでは、PIANC ドイツから WG 186 報告書(大型船舶の岸壁係留方法, Mooring of Large Ships at Quay Walls)及び WG 213 報告書(海上多目的ターミナルの設計ガイドライン, Design guidelines for marine multipurpose terminals)に関する発表を行う予定です。参加ご希望者は以下のリンクから

<https://www.htg-online.de/detail/4-pianc-htg-forum-herausforderung-terminals/>

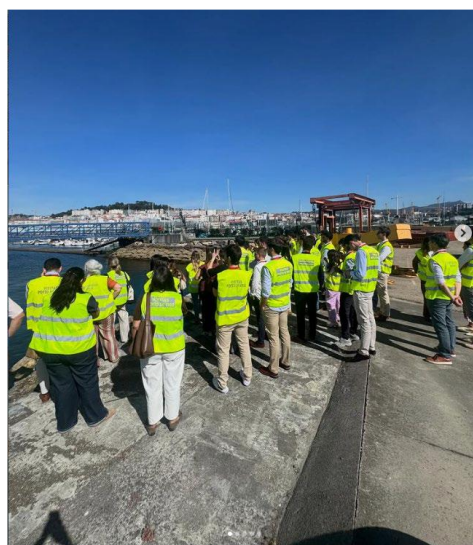
Carolin Moritz  
PIANC ドイツ

## PIANC スペイン 第 21 回若手技術者委員会 技術会合 2026 年 6 月 11~12 日(Vigo 港)

長年にわたり、PIANC スペイン若手技術者委員会(Young Professionals Committee)の年次技術会合は、同委員会の最も重要な活動の一つとなっています。その主な目的は、港湾および海岸分野の若手技術者に対するネットワーク構築と知識交換のためのフォーラムの場の提供です。同時に、講演発表や技術視察を通じて、最新の技術開発の成果を普及させるプラットフォームとしての役割も果たしています。

第 21 回若手技術者・技術会合は、Vigo 港で開催されました。同港は、RoRo 船の発着において欧州をリードする港湾であり、食用の漁獲取扱量でも欧州最大の漁港でもあります。また、その他の多くの関連産業部門の中では、商業用船舶の建造および修理活動におけるスペイン最大の拠点となっています。

今回のイベントには、参加者と登壇者合わせて計 87 名が参加しました。



[Noelia González Patiño](#)

海港委(MarCom)スペイン委員

## PIANC スペイン部会 年次総会を開催 2026 年 6 月 18 日

スペイン部会の年次総会が 2026 年 6 月 18 日、マドリードにて開催されました(於 スペイン港湾庁(Puertos del Estado)本部)。

主な議事は以下のとおり。

- 2025 年度のスペイン部会の活動報告(会長及び事務局)
- 2027 年度の年会費の承認
- 年間予算の承認
- PIANC 各委員会及び国内技術委員会の活動報告
- 国内若手技術者委員会(YP-Com)の活動報告
- PYCture 賞 2026
- Modesto Vigueras 賞 2026 – I 位受賞(若手技術者部門と共同受賞):
  - ・ **Verónica Morales Márquez 氏**: HF レーダーを用いた海象推算-港湾及び海岸管理のための一層効率的な運用システムに向けて(Sea State Estimation Using HF Radars: Towards More Efficient Operational Systems for Port and Coastal Management)
  - ・ **Alba Ricondo Cueva 氏**: ハイブリッドモデリングによる複合洪水リスクの効率的な評価(Efficient Assessment of Compound Flood Risk through Hybrid Modelling)



左から Manuel Arana Burgos 氏(PIANC スペイン部会会長), Verónica Morales Márquez 氏(I 位受賞)

[Noelia González Patiño](#)

PIANC MarCom(海港委) スペイン代表委員

## PIANC 海港委委員会(MarCom)ワークショップ 2026 年 6 月 18 日

スペイン部会の年次総会のプログラムの一環として、以下の PIANC WG 報告書に係るプレゼンをメインとするワークショップを開催しました。

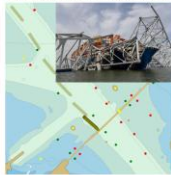


Asociación  
Técnica de  
Puertos y  
Costas

### Jornada MARCOM – 18 Junio



ACCIDENTAL IMPACTS FROM SHIPS ON FIXED  
STRUCTURES: DESIGN CONSIDERATIONS



MarCom Working Group Report N° 215 - 2026



**WG 215**

Impacto accidental de buques  
en estructuras fijas

WG 215(固定構造物と船舶の衝突による  
事故の影響：設計上の考慮事項,  
Accidental Impacts from Ships on Fixed  
Structures: Design Considerations)



MOORING OF LARGE SHIPS AT QUAY WALLS



MarCom Working Group Report N° 186 - 2025



**WG 186**

Amarre de grandes buques a  
muelle

WG 186(大型船舶の岸壁係留方法,  
Mooring of Large Ships at Quay Walls)



PIANC FENDER GUIDELINES 2024



MarCom Working Group Report N° 211 - 2024



**WG 211**

Guía para sistemas de  
defensas

WG 211(PIANC 防舷材システム・ガイド  
ライン 2024, PIANC Fender Guideline  
2024)



CRITERIA FOR ACCEPTABLE MOVEMENT  
OF SHIPS AT BERTHS



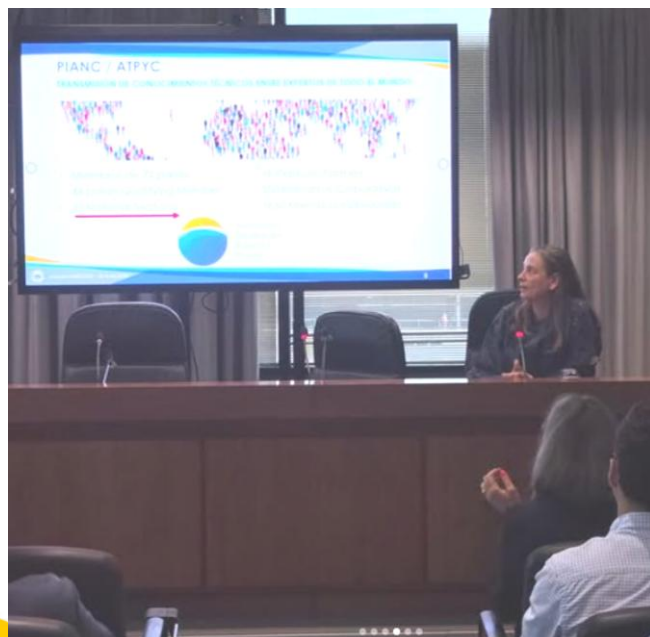
MarCom Working Group Report N° 212 - 2023



**WG 212**

Criterios de aceptación de  
movimientos de buques  
amarrados

WG 212(岸壁における船舶の許容動揺基準,  
Criteria for Acceptable Movement of  
Ships at Berths)



Noelia González Patiño

PIANC MarCom(海港委) スペイン代表委員

## PIANC MarCom WG 248 -船舶への陸上給電ガイドライン(Guidelines for Onshore Power Supply (OPS) for Ships)

2026 年 2 月,PIANC 海港委 WG 248(MarCom WG 248)は, アテネ国立工科大学(the National Technical University of Athens: NTUA)の主催により, 船舶向け陸上電源供給(OPS)ガイドラインの策定作業を進めるため, 実り多き対面ワークショップを実施した。今回の会合では, WG 委員が一堂に会し, 集中的な議論及びドラフトの共同作成を進め, ガイドライン作成の次の段階に係る方向性を調整した。

アテネ会合での重要な成果の一つは「第 7 章 OPS 設置事例」に一層の重点を置くという WG 決定であった。本章において, 世界中の「既設」及び「将来(計画中)」の OPS 設置事例について, PIANC 会員, 会員港湾やプロジェクトチームに提供すべきであることに合意を得ました。実際の経験や得られた教訓を共有することにより, 本ガイドラインは, 固有の船舶用の陸上電源の整備プロジェクトを進める港湾に対し有用な情報を提供できる。また, WG 248 では, 関連する OPS プロジェクトやケーススタディを有している PIANC 会員や港湾からの情報提供・寄稿を歓迎している。ご関心をお持ちの者やご寄稿提供の方は, WG 248 議長までご連絡ください。 [fzulkhepli@portauthoritiesnsw.com.au](mailto:fzulkhepli@portauthoritiesnsw.com.au)。



←写真, 左から 2 人目が白石 WG248 日本委員

今後は, WG 248 では 2026 年 8 月後半にケルンとロッテルダムにて会合を持ち, ガイドライン策定を進めていく予定です。同 WG では, 今年後半にはレビュー用のドラフトの提示を目指しており, 水上交通・海事セクターに対して, 実用的かつ世界的に有用なリソース提供するという重要な一歩となります。

この WG 248 及びそのイニシアティブについての詳細情報については, WG 248 の [TOR\(業務実施範囲\)](#)をダウンロードしてください。

[Fauzan Zulkhepli](#)  
MarCom WG 248 議長

プレスリリース

2026 年 6 月 16 日

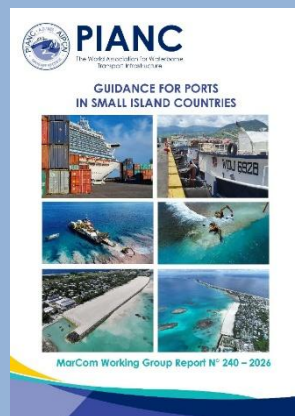
## 小規模島嶼国の港湾のガイダンス(Guidance for ports in small island Countries)

海港委員会(MarCom) WG 240\*

価格：非会員 166 ユーロ／会員 無料 (108 頁)

<https://bit.ly/4vV6fYt>

\*PIANC-Japan 事務局(注)WG 240 日本委員：元野一生氏  
(一財)国際臨海開発研究センター)



国際航路協会(PIANC)は、「MarCom WG 240(2026) 小規模島嶼国の港湾のガイダンス」の発行を発表します。本報告書は、小規模島嶼国(SICs)における港湾インフラの計画、設計、建設、運営及び長期的な持続可能性をサポートするために策定し、実践的かつ包括的枠組みを提供するものです。

小規模島嶼国の港湾は、貿易や交通の結節点として、不可欠な物資やサービスへのアクセスを可能とする極めて重要な「ライフライン」としての役割を果たしています。しかしながら、こうした港湾は、次のような特有の課題に直面しています。

- 地理的な孤立性と限定的な交通接続
- 人口の少なさ及び人的能力・リソース上の制約
- 天然資源の乏しさや、貿易上の大きな不均衡
- 気候変動や自然災害に対する脆弱性
- 環境条件の脆弱性
- 開発整備や維持管理に対する財政的・制度的な不足

本 WG 240 では、PIANC のこれまでの取り組みを基礎としつつ、現在の世界的な優先課題も反映して内容更新を行い、小規模島嶼国の現実の環境に応じた指針を提供し、こうした課題に直接取り組むものです。

WG 240 報告書は、太平洋、カリブ海及び AIS(Atlantic, Indian Ocean, South China Sea)地域における幅広い経験を有する国際的かつ多分野にわたる専門家グループ(構成は下記のとおり)により作成されました。

- 小規模島嶼国の港湾管理者当局及び政府機関
- 開発銀行を含む国際金融機関
- 水上交通・海事分野コンサルタント、エンジニア、コントラクター
- 水上交通・海事業界全般にわたる民間部門のステークホルダー

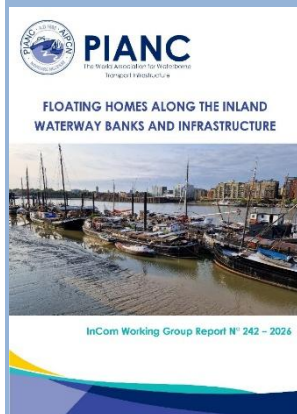
本報告書は、港湾の開発面及び運営面のライフサイクル全体にわたった体系的な指針を提供しており、その内容構成は以下のとおり：

1. 戦略的背景と地域的な考慮事項
2. 環境および気候変動に関する考慮事項
3. 計画および運営の枠組み
4. 設計、建設、および資産の維持管理
5. 持続可能性、エネルギー及び脱炭素化
6. 資金調達および開発整備モデル

WG 240 は、既存の技術基準の単なるコピーではなく、「何を考慮すべきか」について、様々な状況に適応した指針を提供し、小規模島嶼国の条件によって既存の PIANC 及び業界ガイドラインの効果的な適用を可能にしています。

プレスリリース

2026 年 6 月 17 日



## 内陸水路護岸・インフラ沿いの浮体式住居(Floating Homes along the Inland Waterway Banks and Infrastructure)

内陸水路委員会(InCom) WG 242

価格：非会員 182 ユーロ／会員 無料 (120 頁)

<https://bit.ly/3SJ4EqI>

ハウスボートや浮体式建築物を含む水上住宅は、世界中の内陸水路沿いで一層「目につく」ようになっていきます。住宅需要の高まり、利用可能な土地の不足、そして水辺での暮らしの魅力の向上を背景にして、こうした動きは多くの地域で勢いを増しています。同時に、こうした動向は、航行の安全性、法的枠組み、技術的な要件、環境保護に関連して重要な課題の提起につながっています。

新たに刊行された WG 242 報告書は、浮体式住居及び、それらの住居が内陸水路システムに組み入れられている状況について、包括的かつ国際的な概観状況を提供しています。広範な調査と多岐にわたるケーススタディに基づき、現時点の実情を分析し、主な課題の特定とともに、関係する管理当局、計画担当者や開発者に向けた実践的なガイダンスを提示しています。

本報告書の中核をなす原則は、浮体式住宅を許可するか否か、また、どの場所に許可するかという決定は、依然として所管当局の責任という点でし。本 WG では、住居の設置場所を指定することではなく、安全かつ持続可能な統合・同住居の組み込みを確保するために考慮すべき要因に焦点を当てている。特に、内陸水路の本来の機能である「安全かつ効率的な航行」の維持に重点が置かれている。

本報告書の主な貢献点の一つは、通常は船舶として分類されるハウスボートと、航行不可能な構造物である浮体式建築物を明確に区別している点である。この区別は、許可手続き、技術的要件、検査体制、及び長期的な管理という点に直接的な影響を及ぼすものです。

本報告書では、既存の規制面の枠組みが断片化されたものになっていて、その多くが船舶関連の法規制に基づくもので、これらは恒久的な居住用途に必ずしも適していないことを指摘しています。こうした両者の隔たり・不備に対処するため、本報告書では、立地および空間計画、許可・ガバナンス、技術的設計、航行安全、環境保護、サービス提供、維持管理、及び使用終了時の対応を網羅した体系的な一連の提言を示しています。

本報告書は、規範的な基準を策定したものではなく、柔軟なツールキットであると理解すべきです。その提言は、事例ごとの意思決定をサポートすべく意図されており、地域の状況、規制上の環境、水路の特性に合わせて適応させることができます。この点において、関係当局間の緊密な協力と、確固たるエンジニアリング上の専門知識の活用は依然として不可欠です。

本報告書は、課題と可能性の両者に言及することで、水辺開発の新たな形態としての浮体式住居への理解を深めることに寄与します。その目的は、航行、環境保護、公共の安全を損なうことのないことを確保しつつ、浮体式住宅が内陸水路に安全かつ持続可能で、適切に管理された形で組み込まれることを支援することです。